

## 早稲田大学 人間科学部 物理 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	難化。分量は増加。全体に分量と計算量が多く基本事項を確実に答えればよいだろう。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容・コメント	難易度
〔Ⅰ〕	計算ミスに気をつければ、ほぼ全問正答できる。ただ計算量が多いのと、選択肢が非常に多いので選ぶときに注意が必要。	標準
〔Ⅱ〕	ベクトルの外積が頭に浮かぶが、磁束密度が Z 軸に固定されているので、成分分けにより、成分同士のたすき掛けが出てくる。大学へ進んだのちに合点がいくと思う。誘導があるものの、物理的考察ができないと式が作れない。易しくはないだろう。	やや難
〔Ⅲ〕	問題文がゆるいところがある。題意を読み取るのがあいまいだと解けない。最大の波長の意図が、可視光の中での最大なのか、整数倍での意味が曖昧になりがち。問4(1)ははじめ解がないと思ったが、選択肢から逆算して薄膜がかなり薄い場合であることに気がついて納得が得られた。	やや難